

## 令和7年度さいたま市立海老沼小学校 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日時：令和8年2月19日(木) 11:00～

2. 場所：さいたま市立海老沼小学校 応接室

3. 出席者

豊泉日出夫 様 片柳地区自治会連合会 副会長、南中野自治会 会長

山崎 聡亮 様 青少年育成片柳地区会 会長

赤木 寛治 様 片柳公民館 館長

橋本 道子 様 片柳幼稚園 園長

山上 明彦 様 海老沼小チャレンジスクール 実行委員長

古川 明子 様 第二東中学校 校長

森 大樹 様 民生委員、主任児童委員

中山 望 様 海老沼小学校 PTA 会長

佐藤ゆかり 様 海老沼小学校 PTA 副会長

山崎 総司 様 前海老沼小学校 PTA 会長

入澤真理香 海老沼小学校 校長

其原 純也 海老沼小学校 教頭

小林 明子 海老沼小学校 学校地域連携コーディネーター

以上 13名参加

横山 寛 様 欠席

### 【司会進行：教頭】

1. あいさつ（運営協議会会長、校長先生）

2. 教育長メッセージ動画

3. 諸連絡（時間調整のため順序変更）

① 卒業式のご案内

・（変更点）今年度は在校生を休校とし、卒業式の開始時間を9:15に変更

② えびコンのご案内

4. 学校評価結果報告（教務主任 山中先生）

→11月実施の学校評価について報告。別冊のP.17を見ながら。

5. 学校評価システムシートに基づく学校自己評価報告、並びに次年度の学校運営に関する基本的な方針の説明（校長先生）

→学校自己評価システムシートを見ながら。

（追加情報）

① 児童用タブレット機種変更→iPadへ変更。6年生まで使用。

→令和8年3月から使用可能であるが、本校は新年度より使用とする。

→ペアレントコントロールの設定が可能。

② 幼稚園児向け小学校見学会の実施

→見学会以降も自由に見学可能としている。近隣幼稚園／保育園とのつながりの機会を設けた。

③ 救急車要請事案について

→今年度は救急車の要請が3件。下校時に多い印象。

→学校指導により、児童のケガに対する意識は高いが、実際にはケガが発生してしまっている。

6. 次第「4.」の自己評価に対する学校運営協議会による評価、並びに次年度の学校運営に関する基本的な方針の仮承認

【ご意見・感想】

(地域1)

① デジタル教材について

→早くからデジタル機器に触れる機会がある反面、そればかりで止められなくなっているようだ。4歳の孫を見ている、動画視聴に夢中になっていて、充電も自分でやっている。

→海外では、インターネットの使用制限を設けた国もある

→教育の難しさを感じるが、家庭での教育も大切なのではないか。

(学校) ご家庭とも協力して、ペアレントコントロールの設定などを活用しながら、タブレットの利用方法を指導していきたい

② 多様な支援について

→不登校児童の増加。なにがなんでも学校に来る時代は終わったのではないかと個人的に確信している。その子にあった環境の整備が必要なのではないか。

→義務教育とは「親が教育を受けさせる義務」なのではないか。

(学校) ・いそどり学園開校→4月より開校の不登校児童生徒に配慮した新学校。入学予定児童生徒は転向扱いになる。

・Sola<sup>そら</sup>ルームの利用→機能している。登校後、Sola<sup>そら</sup>ルームで各自の学習を取組むことが普通にできている。来年度も教室の確保ができるので生かしていきたい。

③ 地域とのつながり

→子どもたちのあいさつ。長年声をかけているが、ようやくあいさつを返してくれるようになった。やっと認めてくれたのだと感じている。

→学校で指導を強化したのかわからないが、結果ではないか。

(学校) 元気よくあいさつをするのが一番望ましいと思うが、大きな声であいさつ

をするのが苦手な児童もいる。学校では、目を合わせて会釈をするなど「リアクションだけでもしてみよう！」という指導をし始めている。その効果なのかもしれない。

(地域2)

- ① 学校自己評価システムシートの「4.」で、「下校中のトラブル」とあるが具体的にはどんな事か。

(学校) 下校中の子ども同士のトラブルが多い。苦情が出ているものではない。

- ② 下校時は元気で良いことなのだが、(歩道を) 走ったり、車が来ているのに危ないと感じる場面がある。騒ぎすぎではないか。一方で、「ありがとう集会」後、一時的にあいさつ(の声)は大きい。普段の登校時はとても静かで、「元気ないねー」など声をかけるが返答がない。下校時と比べて大人しい。なぜか。

(学校) 「リアクションだけでもしよう！」と指導をし始めたので、逆に「声を出してあいさつをする子」が少なく目立ってしまっているのかもしれない。これは「あいさつをしなくても良い」ではなく、「声を出してあいさつをする」のが一番であると、引き続き子どもたちに指導していく。

(地域3)

「できない」と言えない子がいる。助けてもらえるつながりが必要ではないか。大人もその姿勢を子ども達に見せることで、助け合いの社会が見えてくると良いなと思う。

(学校)

- ・本校は職場環境に対して概ね肯定的な評価であるが、中にはネガティブな気持ちの職員もいる。そのような職員に対して声をかけるようにしている。
- ・学校の先生たちも人間だということを家庭から子どもたちに伝えていただきたい
- ・学校職員に関する法律が変わる→効率的に(職務を)進めていきたい。

【令和8年度学校経営方針(案)に対する仮承認】⇒承認

※正式な承認については、令和8年度の学校運営協議会にて再度承認いただく

7. 各委員より本年度のふり返り(感想)※一部抜粋

(地域1) 横山様よりお手紙(代読:教頭先生)

(地域2) この会の物足りなさを感じる。もっと議論すべきではないかと思う。

(チャレンジスクール) 今年度の活動報告

8. 閉会の言葉(運営協議会会長)

- ・児童との交流(給食)